

令和元年度第2回花巻市地域自治に関する懇談会会議録

【日 時】 令和2年1月28日（火）午後2時～午後5時

【場 所】 花巻市定住交流センター2階会議室1・2

【出席委員】 広田純一座長、役重眞喜子副座長、葛巻徹委員、岩渕満智子委員、高橋久美子委員、伊藤昇委員、伊藤實委員、高橋一彦委員、佐々木政行委員、菊池利和委員、岩舘仁委員、板垣あや子委員、菊池和彦委員、下林育男委員、川村智子委員（15名）

【欠席委員】 菊池正行委員（1名）

【市側出席者】 久保田留美子（地域振興部長）、菊池司（地域づくり課長）、佐々木彰子（同課地域支援室地域支援監）、坊澤尚行（同）、黒沼寿夫（大迫総合支所地域振興課地域支援室地域支援監）、八重樫祐加（石鳥谷総合支所地域振興課地域支援室地域支援監）、及川恒雄（東和総合支所地域振興課地域支援室地域支援監）（8名）

【次 第】 1 開会

2 挨拶

3 座長挨拶

4 前回の振り返り

5 グループワーク

①コミュニティをもっと気軽に

～地域の負担を軽くするために～

・意見交換

・発表（3グループ）

・座長、副座長より

②創意の活動をはぐくむ、行政との連携充実

～（仮称）〇〇〇企画会議応援プロジェクト～

・意見交換

・発表（3グループ）

・座長、副座長より

6 全体まとめ

・座長、副座長より

7 閉会

1 開会

菊池課長による開会あいさつ

皆様、大変お疲れ様でございます。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。それでは只今から令和元年度第2回目の花巻市地域自治に関する懇談会を始めさせていただきます。わたくし、本日の全体の進行を務めさせていただきます、地域

づくり課の菊池と申します。いつもお世話になっております。どうぞよろしく願いいたします。それでは初めに地域振興部長の久保田よりご挨拶を申し上げます。

2 挨拶

久保田地域振興部長より挨拶

皆さんこんにちは。本日は例年になく雪は無いのですけれども、このように寒い中ご参加をいただきまして、ありがとうございます。そして、広田先生、役重さんにも本当にお忙しい中、ご指導いただくことで、大変感謝しております。ありがとうございます。本日は昨年度から数えまして、今日で5回目の懇談会になります。この間、皆様方には様々なご意見をいただきまして、花巻市の地域自治が目指す姿として、目指す方向として地域を身軽に、あるいは若い方や女性の方々の創意を引き出す、そして、地域と行政の連携という方向を見据えて行くといことで多くのご意見を頂戴してまいりました。この後、地域づくり課の職員より「地域を身軽に」という一端の中で、私どもが地域にお願いしている役割や仕事と言いますか、そういった事に関して調べた結果についてご報告をさせていただきます。地域を身軽にということは、人口減少が進んでいる中で、やはり必須の課題ではあると思うんですけども、地域を身軽にすることは、まず一つの目的ではありますが、今までより身軽になった分、若干の隙間というか、余白が出てくる中で、本来の進むべき方向、本来、地域とは何をやる場所なのか、コミュニティとは何をやる場所なのか、という事を考えて行く、そこが、その隙間の中の今後やるべき事ではないかというふうに思っております。人口減少もですけども、就業構造が変化し、そして、コミュニティに対する考え方は、世の中が便利になればなるほど、変わってきていると言うことを私も日々、6年位前にこの課にいた時に、また戻ったんですが、やはり地域の方々からいただくご意見や、時々電話もいただいたりするんですけども、やはり変わってきたなっていうのが、すごくあります。そして、自治会になかなか入ってくれなくなったという声が、やっぱりいっぱいあります。そういった中で、今後どうしていくかという事を考えるのが今、非常に大事なことではないかと思えます。生きていく中で、小さい事から言えば私たちが隣の家の方と作っていく、大きくなれば、自然とそうなるんでしょうけども、生きていく上で関わりあいなく生きていくことができるのか、という事は改めて、コミュニティがいるのか、という事を最近若い方から言われたことがあります。それは本当の事です。なので、そういう問いかけに対して、どういう答えをするのかという事を真剣に考える必要があるんだなというふうに自分自身に今、思っています。

今日もまた皆さん方からご意見をいただいて、今後現実的に進めていく中で、そのご意見を糧として、参考としていきたいと思えますので、本日もご忌憚のないご意見、アイデアを頂戴したいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

3 座長挨拶（広田座長）

皆さん改めまして、今日はよろしくお願ひします。部長から大変立派な挨拶があったので、それに加えるという事では無くて、最後におっしゃった、コミュニティはなぜ必要なのかという、これ、非常に重要でかつ答えにくい質問でもあります。被災地で何度かその問いを突き付けられたことがあります。なんでコミュニティ形成をやらなければいけないのか、ということですね、あの被災地でさえそうなんです。ちょっと要点だけ申しあげますと、私がどう答えるかという、一つはいざという時のため、有名な話ですけど、阪神淡路大震

災で、地震災害で建物に潰されちゃったわけですけども、助かった人の7割はご近所が助けたんですね。近くにいる人が。警察も消防も、もちろん、当時だと自衛隊もいちいち現場まで行けませんから、これが一番分かりやすい例で、学生たちにいつも言っているのは、岩手大学の学生アパートはコミュニティが無いんですよ。隣同士でさえ挨拶をしないみたいな、地震おきたらみんな死ぬぞって、おどかしているんですけども。二つ目にいうのはですね、普段の気持ちのいい生活のためというのは、ちょっと抽象的な言い方するんですけども、人間って知り合いには協調的なんですけども、知らない人にはものすごく敵対的というか、対抗的になるという、これはたぶん遺伝子レベルで、そういう遺伝子を持った人類が生き残ったんでしょね。ですから、顔の知らない駅員は殴りますけども、あれ、知り合いのおじさんだったら殴ることは絶対ないわけですし、よく分からないけど、そういう習性があるわけで、ご近所、知り合いであれば、挨拶もするし。例えば被災地の例でいえば、災害公営住宅で、エレベーターのあるような団地がいっぱい出来たんですけども、そのエレベーターの中で、知らない人同士が一緒になった時の気まずさというのがよくあったんですね。同じフロアで降りるのに知らないというのは、無茶苦茶気まずいと。挨拶すればいいじゃないかと言っても、なかなか知らない人だと、近所の人かどうか分からないということで、一事が万事、そういうことで、少なくともご近所くらいは顔見知りであることが最低限重要なんだという話をします。そうこうありまして、これは人間の性なんですけども、困っている人とか、悩みのある人に対して、助けられると凄くいい気持ちになるのが、我々、人間です。顔見知りになった後はお互い支えあうことで、非常に気持ちのいい暮らしができるわけですよ。ところがですね、この話が通じるのはそういうコミュニティに育った人だけなんです。で、若者になかなか通じにくいのは、食べたことのない料理みたいなものでして、美味しいと分かっていたらそうだねと言って、説明しなくても分かるんですけども、体験のない人に文字で、言葉でその心地よさを伝えるのはものすごく難しい。なので、うちの学生たちにコミュニティ必要だよと言ってもですね、先生が言うから、とりあえずは「うん」というけれども本当のところはたぶん分かっていない。そういうことで、コミュニティがなんで必要なのというのは、そういう性格を持つものなので、その上で、とりあえず、やっぱりいいねっていう経験を積んでもらわないとやっぱり分からない。食べたことのない料理ですから、食べさせないといけない。という事で私がいつも言っているのは、コミュニティって作るものですよ、ほっといても自然にできるわけでは全然なくて、花巻はもうコミュニティがあるわけですけど、それは先人の方が努力して作って、今も努力して維持しているからあるんですよ。全然知らない者同士で、災害公営住宅でほっといたら何も生まれません。こういう体験をする中でやっぱりコミュニティって作るものだなってすごく感じるわけですし、ちょっと話が長くなって申し訳ないんですけども、この懇談会、花巻市の自治の話なんですけども、そのコミュニティって何で必要なのっていうふうな疑問を持っている人たちも少なからずともいる中でコミュニティを作っていくかなくちゃいけないわけなので、やはり作るものとある程度の仕掛けとか仕組みが必要なんだというところを前提でいろいろ議論したほうがいいんじゃないかなと、個人的には思っています。ということで、この懇談会の目的がですね、地域自治を担う組織やその制度のあり方について意見交換っていうのは、まさに仕組みとか仕掛けをどうしたら、より良いコミュニティ、持続的なコミュニティに出来るか、そういう根本議論をやっていただく場がここですから、いつもの通り率直な意見交換をしていただければ、実りのある会になるのかなと思います。ちょっと長くなりました。以上です。

今日もよろしく申し上げます。

4 前回の振り返り（佐々木地域支援監）

別紙資料により説明

5 グループワーク

テーマ① コミュニティをもっと気軽に～地域の負担を軽くするために～

- ・ A、B、C班に分かれ意見交換
- ・ 別紙資料のとおり

役重副座長コメント

やっぱりなかなかそれぞれなので、まとめるというわけにはいかないのですけれども、最大公約数でしゃべるとすれば、やっぱり行事への動員は、これはある程度整理していけるんじゃないかということでこれは指摘しておきます。

それから募金もですね、募金にもいろいろあるのですけれども、なかなかこれはやっぱり各戸をまわって集めるという時代ではないのではないかと。実は全国的にもですね、自治会の自治会費のなかで見直しが進んでないのはこの募金です。ここはほかの事例も研究して当局に研究してもらいたいと思います。

あとはですねやっぱり、やり方の改善ですね、回覧は確かにいっぱいそれぞれきれいになんぼでもパソコンで作れるんですよ。フライヤというものですけれども、それを回してくるのですけれども、少なくとも一覧にしてほしいものだけをそこから取り寄せられる仕組みがあるといいなとか、その辺のやり方の改善ということをひとつあげておきます。

あとは広報にしても極端な話をすると、各戸宅配ですよ、東京とか名古屋とかは。あるいは新聞折り込みなんです。だけど、本当にそれでいいのかということも考えていかなければならない。もちろん、ネット見てくださいというのも、本当にそれでいいのかと。読まない読まないと言っても何となくこたつの上に広報がいつも出ている、それで何となく家族も見ているということになるわけで、大事なのは良い悪いではなくて、違うやり方をとった場合、こういう良さもあるけどこういう問題もあるよねということ、かなり慎重にきちっとみんなまで考えながら進めていくということだと思います。

委員の推薦なんかも、行政の方が全部やるということもあるかもしれないですけれども、この推薦業務があることによってですね、地域の動ける人とか主立つ人とかそういう人たちの顔を覚えておかなければならないなとか、そういうこともあるわけですよ。実際我々がそういうものを一切なくしてしまっているのかということがあるわけです。今日出たことは、すごい大事な論点ですのでひとつひとつ取り上げながら考えていくという作業をするための結果を出していただいたかなと思います。

広田座長コメント

みなさんの議論を横から聞いていて、広報だとか委員だとか行事、募金、そのこと自身が必要かという議論が結構ありまして、そこはやはり少し精査する必要があるのかなという気がします。広報等の配布をたくさんいろんな資料を機械的に配布させられる現状があるみたいで、それぞれ配ってほしい側からすると、情報を伝えたいんでしょうけれども、それが全部

重なるとほとんどの人がそれを見ないという意見もありましたので、広報等の配布自身がどのくらい今のやり方で必要なかということを整理しなくてはというのが一点目。

二つ目が、班長に渡せるから意外に楽しんだよという意見もちょくちょくあったんですけども、地域内で役割分担ができているところとそうでないところで、区長さん自治会長さんの負担が相当違うんだらうなというところがあるんで、これは今後の地域の組織で負担を分けるみたいなことにつながってくるんですけども、これからの組織づくりに分担をというところにも絡んでくるんだらうなと思いました。

三つ目は今、役重さんがおっしゃったんですけども、負担だからやめていいかという問題が実はあって、被災地の話を例にして恐縮なんですけど、実はいま大槌町の中心市街地で自治会も全部なくなったところでゼロからコミュニティを作るってやってるんですけど、その時に班長さんについては、やっぱり持ち回りでやってもらおうと。

要するに班長さんをやることでまさに顔見知りになれるからということ、うんと高齢な方とか無理な方を除いたとして、やっぱり班長さんをやってもらった方がいいんだとなりつつあるんですが、それも1年とかだと何時回ってくるかわからないから、最初は2か月とか3か月とかでどんどん回していったら早く顔見知りにした方がいいというふうなそういう議論をされていて、なるほどなと思うんですね。花巻みたいに従来からコミュニティがあるところはどうなのかわからないですけども、ただやっぱり若い世代では地域の中で顔を知らないというケースがあるみたいなので、負担が大きいから全部やめてしまえ合理化していいということでは必ずしもなくて、顔見知りやより親しい関係になるために、必要なことはやっぱり残したほうがいい、あるいはやり方を変えて残したほうがいいというふうに思いました。いずれにしても議論の多様性自体が非常に良かったんじゃないかなと思いました。ご苦労様でした。

テーマ② 創意の活動をはぐくむ、行政との連携充実
～（仮称）〇〇〇企画会議応援プロジェクト～

- ・ A、B、C班に分かれ意見交換
- ・ 別紙資料のとおり

役重副座長コメント

5回同じメンバーで話してもらって、5回目にして場がほぐれて、いろんなご意見を出してもらえて良かったと思っています。

共通するのは、今までコミュニティコミュニティって一生懸命やってきたけど、その枠の中だけじゃなくて、枠を外して、もっと小さい単位や逆に旧町とかもっと広い単位で活動している人とか、そういうところに実はタネがいっぱい落ちているんじゃないかなということの話が共通で出されたのかなと思います。その延長でお話したいのですが、一つは、地域は3層になっていて、皆さんのように頑張ってくれているコアな方々がいて、みなさんいつもわがねえな若え人たちどこさいるんだべって言うている人たちがいます、その中間にいる人たちの中にたくさんのタネがあると思っていて、地域に関心がないわけじゃない、何か役に立ちたい、だけど忙しいし役にされるのは嫌だな、そうでない部分ではお手伝いしたいし仲間づくりをしたいという思いを持っている人がいる。そういう人たちは掘り起こしというよりもうすでに芽を出しています。その芽はどこにあるかといったときに、例えばスポ少の

お母さんたちが集まった時に、こんな事もっともっとできるよねって話が出たり、保育園の父母会の時にじいちゃんばあちゃんに何か良いことしてあげたいねとか、良い思いや願いがいっぱい出てくる。だけどその場で終わる、つなぐ人がいないと。実はつなぐ人がとても大事ということ。

兵庫県の朝来市の馬袋さんという職員の方が活発な活動をされていますけれども、30代40代の方々が子どもたち連れて地域でバーベキューしたりしていろんな活動で盛り上がっている地域があって、最初は彼女がバレーの指導者でお父さんお母さんたち子どもたちと話ししている中で、もっと地域広げて子供合宿みたいなのをやってみたいよねって話を馬袋さんが地域の協議会につないだところからその活動がずっと何年も続いているということなので、職員なりコミュニティの役員さんも地域の中からアンテナ立てているんなところを拾っていくとこういう芽はいっぱい出てくるのかなということが一つです。

それから笹間のSY P (SasamaYoungPlanning) の話が出てきたんですけれども、もうひとつのポイントは楽しいことをやることですね。楽しいことしかやっちゃだめなんですね。私に関わった中間サポートの地域の方で、なぜ笹間が今成功事例というほどまだですけど頑張っているのかというと、一番最初にワークショップをするときに、どこの地区も30何人集めなくてはならないということで、PTAとか子供会とか青年団とかから何人だとかいう集め方をしました。それをやると動員なんですよね。やっぱり皆さん真面目なので来るんだけど、続かないんですよ動員だから。SY Pは最初、コミュニティの会長さんはじめ役員の方々は青年団と消防団の支部から人をはじめると話したんです。それはやめましょうと、3人でも4人でもいいから、楽しいからやりたいという人を集めましょうと。それで3人4人居たので彼らから始めましょうとしました。最初は心配でした彼らだけで1年間進めるのは、でも楽しそうにやっていると人は集まってくるのでそれがよかったのかなと思います。やっぱり楽しいこと、やるって言ったら任せることが大事かなと思います。

あとは、補助制度のことは協議の場の中で出てくるのかなと思いますけど、ひとつお金のことだけではなくて、人の支援が大事です。棚田マラソンでは実際イベントやるとなると、誘導員とか小旗振ってくれる人とか、人が大事で、それをコミュニティにお願いすることはとてもハードルが高いことです。成島の菊池和彦先生なんかはちゃんと事務局長さん自ら歴史ガイドしてくれたりしてそういう応援をしてくださって、交付金を使うってことは、もしハードル高ければ、コミュニティのなかに助っ人制度みたいな感じで若い人が活動するならとにかくあの人に相談してみてもといったような窓口を作るとか、そういったところもみなさんの話のなかから必要だなということがわかりました。ありがとうございました。

広田座長コメント

それぞれの班の意見交換を聞いていてなるほどなと思うことがいろいろありました。すでに各班からそして役重さんからも出ていましたけれども、小さな創意を掘り起こすにはどうしたらよいかということですが、すぐに事業に立ち上がる以前に、場をどうやって作るかという、そういう次には、どういう小さな創意を実現するような人たちの集まる場をどう作るかということがすごく重要なんだなと皆さんの意見を聞いていて思いました。

場の作り方として、ひとつはコミュニティ会議とか自治会とか既存の組織の中で上手につくっていくということ、すでにあるいろんな部会のなかで話し合ってもらうのもあるし、B班で出ていましたけれど、若者何とか会議を作っているというそういう仕掛けの仕方もある。もう

ひとつ、コミュニティ会議とか自治会とか今の住民組織にこだわらない、課題をもっている人たちに集まってもらって、そこでいろいろ意見交換するなかで、小さい事業にまとめていけばいいと思っていて、コミュニティ組織以外のところでそういった場をどうやって仕掛けていくことができるかがポイントなのかなと思いました。

2点目ですけれども、そういう場での話し合いの仕方というか、いくつかの班でできていたけれども、自由に発言できる雰囲気とか、あまり責任を負わせないこととか、何かやろうとして責任問題が出ちゃうともうそこでやめようという話になっちゃうわけで、また会計とか事務とか面倒くさければもういいかなとなっちゃうわけで、その自由な発言の保障と過度な責任を負わせないような話し合いの場を上手に作るということがポイントなのかなと思いました。これは余談ですが、A班で若者とお年寄りの自動翻訳機がほしいみたいな話がありましたけれども面白いなと思って、同じような年代や考え方の人たちが集まれば、盛り上がると思うんですけど、そうじゃない人たちが混ざっちゃうと、お互い発言するたびに誤解の積み重ねみたいになっちゃうことがあるんですよ。うちらも学生と話していてそのような感じになることがあります。そういうときに間をつなぐ、将来的にはスマホで年齢を入力すれば若者と通じるようなことをしてくれる機械ができればいいのですが、当面無理でしょうから、やっぱり人的支援とかその場を上手に回すような人の存在は必要なのかなと思いました。あと、地域づくり交付金については、僕はコミュニティ会議の様子についてはよくわからないですけれども、ほんとはもっと自由に使えるはずなんだけれども、役員さんたちには少し欠けているところがあると思って、本来は交付金の制度の中で小さな創意に対していろいろ使えるはずなんですよ。そこがうまく回せないとなると、コミュニティ会議への啓発、行政のほうから働きかけが必要なのかなと思います。

そのようなことで、まとめというわけではないですが、場づくりというのがすごく重要で、それも単に開くだけじゃなくて、自由な発言ができて、足引っ張るような発言が出ないような形にすると、自ずと小さな創意が出てくるのかなと。役重さんおっしゃったように、もうすでにPTAとかスポ少だとかでそういうところで話が出るんだけど地域づくりにつながるというのは、いろいろやりにくそうな話があって、そこもひと工夫で、それも広い意味での場づくりじゃないかと思えますけれども、小さな創意の発言につながるような仕掛けみたいなのができるといいでしょうね。まとまりがない話になりましたが第2議題については以上です。お疲れさまでした。

6 全体まとめ (16:50)

広田座長コメント

昨年度から5回、私も花巻市のコミュニティの実情の一端を勉強させてもらって、大変参考になりました。

総括というよりは、せっかくいいアイデア、意見が出ているんですから、ここから先はどう行政が受け止めるかということがとても重要だと思っておりまして、打ち合わせでもお伝えしましたがけれども、話し合っている話し合いができたね、で終わっているんじゃないかということ。やっぱり形にしないといけないと思いますので、少し市のほうで、少なくとも2つの、地域を身軽にということと、小さな創意の実現の話が出ましたから、これはやっぱり具体的な制度とか事業とか、そういうものに作り上げてほしいなと思います。そのうえで新しい仕掛けや仕組みを、また今度はみなさんと話し合ったとおりのわけですから、上

手に使ってモデル的にやっていただけると、この懇談会が有意義になるかなと思いますので、いったん区切りにはしますが、これから実践の場にステップアップするために引き続き協力いただければと思います。5回皆勤賞の方もいらっしゃいますけれども、大変お疲れさまでした。どうもありがとうございました。

7 閉会

菊池課長より

先生のお話しにもありました通り、皆様におかれましては、平成30年から地域自治に関する懇談会の委員メンバーとして活発な意見交換、たくさんのご意見を頂戴してきました。また、広田先生、役重さんには的確なアドバイス、花巻市が今後進めていく方向性を示していただきました。

お話しにありましたとおり、我々も皆様から出された意見をもとに形にしていきたいと思えます。今後も各分野で活躍されている皆様方にご意見やアドバイスをいただきながら進めてまいりたいと思えますので、今後ともご協力ご支援をお願いしたいと思います。それではこれを持ちまして、地域自治に関する懇談会を閉じさせていただきます。

誠に有難うございました。

(閉会)